

煮沸シ蒸餾水ヲ加ヘ百瓦トナシテ之ヲ濾過シ其ノ濾液八十瓦ヲ秤取シ之ニ「メチール」ヲ
 レンジ液ヲ加ヘテ標示藥トナシ二分ノ一定規鹽酸液ヲ以テ過剰ノ炭酸亞爾加里ヲ逆測
 シ亞爾加里金屬以外ノ金屬ト化合シタル鹽素ノ量ヲ算出スヘシ

四 可檢礦物ヲ以テ適度ノ濃度ヲ有スル溶液ヲ作り之ニ一定量ノ「コバルト」液「硝酸」
 「コバルト」液ニ亞硝酸曹達五十分ヲ蒸餾水百分ニ溶解シタル
 液ヲ加ヘ更ニ冰醋酸十分ヲ加ヘテ攪拌シ一晝夜間放置シテ得タル上澄液ヲ加ヘ一定時
 間内ニ於テ黃色沈澱ノ分離スル状態ニ依リ加里ヲ檢定シ之ニ化合シタル鹽素量ヲ算出
 スヘシ

五 第二號ノ總鹽素量ヨリ第三號及第四號ノ鹽素量ヲ減シ其ノ殘數ニ一、六五ヲ乘シ鹽化曹
 達ノ量ヲ算出スヘシ

第二條 含鹽礦物ノ變性ヲ爲サシムル場合ニ於テ其ノ混和スヘキ礦物ノ含有鹽化曹達量ハ前
 條ノ試驗方法ニ依リ之ヲ檢定スヘシ

第五節 技術官吏養成

明治三十八年一月法律第十一號ヲ以テ同年六月ヨリ鹽專賣法實施ノ旨公布セララルヤ當時鹽ノ
 鑑定ニ從事スヘキ技術員ヲ養成スヘキコトハ最急ヲ要スル問題ノ一トナリタリ依テ主稅局ニ於
 テハ之カ實施ニ先チ農商務省若ハ大藏省内ニ在勤シ技術ノ事務ニ從事セル吏員ノ内ヨリ化學ノ
 素養アルモノ又ハ曾テ製鹽ノ技術ニ經驗アルモノ約三十餘人ヲ選出シ約二箇月間ニ涉リ講習會
 ヲ開キ鹽專賣法、鹽ノ製造法及變性法、鹽ノ分析法等鹽ノ鑑定技術ニ必要ナル科目ニ就キ講習ヲ遂
 ケシメタリ而シテ是等ノ講習員ハ講習終了後孰レモ之ヲ各地ノ鹽務局ニ配置シ更ニ鹽ノ主產地
 タル十州地方ニ於テハ廣島、神戶、丸龜ノ各稅務監督局ニ將來其ノ地方鹽務局ニ在勤スヘキ豫定ノ

技術員ヲ召集シテ鹽ノ鑑定上必要ナル科目ニ就キ傳習ヲ爲サシメタリ之レ實施當初ニ際シ技術員養成ノ手段トシテ採ラレタル應急ノ方法ナリキ而シテ當時又技術見習員ノ養成方法トシテ左ノ如ク鹽務見習員規程ヲ發布セラレタリ

勅令第二百二十二號 (明治三十八年三月三十日)

第一條 鹽ノ鑑定事務ヲ練習セシムル爲鹽務局ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ各鹽務局ヲ通シテ五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 見習員ハ高等小學校ヲ卒業シ若ハ中學校二年以上ノ課程ヲ修メタル者又ハ之ト同等

以上ノ學科ヲ修メタル者ヨリ之ヲ採用ス

第三條 二年以上見習員トシテ勤績シタル者ハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ鹽務局ノ技手

ニ任用スルコトヲ得

第四條 見習員ニハ月額十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行後二箇年間ハ本令第三條ノ年限ニ拘ラス見習員ヲ技手ニ任用スルコトヲ得

右見習員ハ左ノ如ク之ヲ各鹽務局ニ配置シ鑑定事務ノ實地練習ニ從事セシメタリ

- | | | | | | | | | | |
|----|---|----|---|-----|---|-----|----|----|---|
| 東京 | 一 | 長崎 | 一 | 名古屋 | 二 | 仙臺 | 一 | 金澤 | 二 |
| 赤穂 | 四 | 味野 | 四 | 尾道 | 四 | 三田尻 | 六 | 阪出 | 六 |
| 撫養 | 四 | 熊本 | 四 | 鹿兒島 | 三 | 計 | 四二 | | |

大藏大臣達臨第一二五三號 (明治三十八年四月一日)

其ノ局見習員定員左ノ通相定ム

見習員定員 (何人)

專賣事業創始ノ際ニ當リテハ技術員ヲ得ルニ急ヲ要シ自然其ノ採用ノ範圍擴張ノ必要アリタリト雖事業ノ進歩ニ伴ヒ採用資格ヲ高ムルノ必要アルト共ニ明治四十年十月專賣事業統一セラレ鹽專賣ハ煙草又ハ樟腦專賣ト併合セラレタルニ因リ同年九月見習員採用令ヲ改定公布セラレタリ

勅令第三百九號 (明治四十年九月二十七日)

第一條 煙草鹽樟腦ノ鑑定、保存及製造ヲ練習セシムル爲專賣局ニ見習員ヲ置クコトヲ得

見習員ノ數ハ二百五十人ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 見習員ハ官立公立中學校ヲ卒業シタル者之ト同等以上ノ學科ヲ修メタル者又ハ相當

ノ教育ヲ受ケ煙草鹽樟腦ノ取扱ニ經驗アルモノヲ以テ之ニ充ツ

第三條 二年以上見習員トシテ煙草鹽樟腦ノ鑑定、保存及製造ニ從事シタル者ハ文官普通試験

委員ノ銓衡ヲ經テ專賣局技手ニ任用スルコトヲ得

第四條 見習員ニハ毎月二十圓以內ノ手當ヲ給スルコトヲ得

附 則

本令ハ明治四十年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十七年勅令第六十一號及明治三十八年勅令第二百二十二號ハ之ヲ廢止ス但シ本令施行

ノ際右勅令ニ依リ見習員タル者ハ本令ニ依ル見習員トシ其ノ期間ハ第三條ノ期間ニ通算ス

明治四十一年迄ハ見習員ノ養成ハ專ラ之ヲ支部局ニ委ネタルモ專賣事業ノ擴張ト共ニ見習員ノ

養成ハ倍々重キヲ加ヘ且之カ養成ノ統一ヲ圖ルノ必要アリ依テ明治四十二年五月見習員規程ヲ

改正シ學術ニ關スル講習ハ總テ本局ニ於テ之ヲ行ヒ支部局又ハ試驗場ニ於テハ單ニ實務ヲ練習

セシムルコトニ改メタリ

專賣局長官達祕第三二五〇號（明治四十二年五月十日）
專賣局見習員規程（抄録）

第一章 總 則

第一條 見習員ハ本局ニ於テ學術ヲ講習セシメ支部局又ハ試驗場ニ於テ實務ヲ練習セシムル
モノトス

第三章 學術講習及實務練習

第十條 見習員ノ學術講習及實務練習ノ期間ハ二箇年トス

前項ノ期間ヲ經過シタル見習員ニハ在勤廳ニ於テ實務ノ補助ニ從事セシメ其ノ旨本局ニ申
報スヘシ

第十一條 學術講習ハ毎年四月十一日ヨリ十月十日迄ノ期間ニ於テ五十名以内ノ見習員ニ就
テ之ヲ行フ

第十二條 前條ノ期間中ハ見習員ニ本局勤務ヲ命シ月手當五圓以内ヲ加給ス

第十三條 學術講習ヲ受ケシムヘキ順位ヲ定ムル必要アルトキハ第六條ニ準シ試驗ヲ行フ

第十四條 見習員ノ學術講習科目左ノ如シ

- 一 應用理學、應用化學、化學分析法
- 二 植物生理及病理、顯微鏡使用法
- 三 土壤學、肥料學、氣象學、農業大意
- 四 煙草栽培、乾燥、醱酵法
- 五 煙草鑑定法
- 六 專賣法規

第七章 鑑定

七 煙草製造法

八 用器畫法

九 葉煙草鑑定實習

支局及試験場ノ見習員ニ限り前項ノ外左ノ科目ヲ加フ

一 鹽製造法、鹽變性法

二 鹽鑑定法

三 樟腦鑑定法

四 樟腦製造法及用途、林學大意

五 鹽、樟腦鑑定實習及分析

製造所ノ見習員ニ限り第一項ノ外左ノ科目ヲ加フ

(省略)

課程時間割等ハ別ニ之ヲ定ム

第十五條 學術講習中ノ見習員ニ對シテハ各科目ニ就キ隨時試験ヲ行フ

試験合格者ニハ終了證書ヲ授與シ局報ヲ以テ之ヲ公示ス

第十六條 學術講習及講習事務ヲ管掌セシムル爲講師若干名幹事二名及事務員若干名ヲ置キ

專賣局在勤ノ職員及囑託員ヲ以テ之ニ充ツ

第十七條 見習員ニハ實務練習ノ爲支部局及試験場ニ於テ技術及事務ノ實習ヲ爲サシムヘシ

第十八條 支部局長及試験場長ハ見習員ノ實務練習ヲナサシムル爲當該官署在勤ノ職員中ヨ

リ指導員ヲ指定スヘシ

而シテ之カ講師ハ第十六條ニ示ス如ク專賣局技師及技手ヲ以テ之ニ充テ尙斯學專門ノ大學教授

又ハ農商務技師等ニ講師ヲ囑託シテ講授スル事トセリ

第八章 回送

第一節 回送ニ關スル沿革

專賣創始ノ際ニ在リテハ各地方ニ鹽ヲ回送シ之ヲ需要者ニ供給スルハ悉ク鹽商人ノ自由ニシテ全ク競争販賣ニ依リテ自ラ需給ノ平準ヲ保タシムルノ主義ヲ採リ各鹽務局長ニ對シ左ノ心得ヲ内訓シタリ

大藏大臣内訓臨第一八六五號抄錄(明治三十八年五月十一日)

第十條 回送ノ爲鹽ヲ運搬スルトキハ其ノ數量ヲ減耗スルノミナラス各需要地ニ適宜配合セ

シムルハ寧ロ民間ニ委スルヲ利ナリト認ムルヲ以テ倉閭等已ムヲ得サル場合ノ外ハ鹽ノ回送ヲ爲ササルモノトス

然レトモ此ノ制度タルヤ鹽ノ供給ヲシテ全國ニ圓滿ナラシムル所以ニ在ラス若シ產鹽不足ノ場合ニハ商人ヲシテ買占賣惜ヲ敢テセシメ依テ以テ暴利ヲ貪ラシムルノ虞ナキヲ保セス現ニ專賣施行ノ初年タル明治三十八年度ニ於テハ不幸ニシテ製鹽稀有ノ凶作ナリシヲ以テ其ノ供給圓滿ナラス鹽價俄ニ格外ノ騰貴ヲ來シタルカ爲全國各地ニ於テ專賣法ノ不備ヲ訴フル者アルニ至レリ是ヲ以テ法令上鹽賣買業者ノ販賣價格ヲ制限スルヲ得ルコトニ定メ尙一面ニハ鹽ノ產出少キ地方ニ對シ鹽ノ供給ヲ潤澤ナラシムルト同時ニ商人ノ仲介ヲ俟タスシテ成ルヘク直接需要者ニ鹽ヲ供給シ以テ鹽價ノ不當ナル騰貴ヲ豫防セムトスル目的ノ下ニ鹽ノ回送ヲ行フコトトシ其ノ實行方案ニ付キ各鹽務局長ノ意見ヲ徵シタルニ大要左ノ二種ニ分レ即チ